

令和元年度第2回庄原市特別支援教育研修会

令和元年 11月20日(水) 14:00~16:35 庄原市総合体育館

「特別支援教育の校内支援体制の中核を担う、特別支援教育コーディネーターの資質向上を図るとともに、校内支援体制の充実及び特別支援教育を視点に据えた授業改善を推進する。」ことを目的に研修会を行いました。

【講話】「本市における特別支援教育の状況について」

庄原市教育委員会 指導主事 小谷 綾子



■本市における特別支援教育の状況についての講話と、各校特別支援学級で実施している自立活動等の状況の交流を行った。

- ・本市においても、支援の必要な児童生徒の割合は増加しており、特別支援教育の一層の充実が求められる。
- ・特別支援教育の充実のためには、個別の教育支援計画の作成・活用等、計画的・組織的な取組が必要である。
- ・計画的・組織的な取組のための中心的役割を担うのが、特別支援教育コーディネーターである。
- ・自立活動は、当該児童生徒のもつ困難さや課題の克服のために必要な知識、技能、態度及び習慣を養うために行う。

【自立活動の交流で出た意見】

- 自立活動で学習したことを家でも行えるよう、家庭連携を図っている。
- 中学校では、入試面接を見据え、人前でのスピーチ等の指導も行っている。

【講話】「ユニバーサルデザインを取り入れた授業づくり」

広島県立庄原特別支援学校 中学部主事 佐藤 喜昭



■支援を必要とする児童生徒を含めた全ての児童生徒が学びに向かうための授業づくりについて、参加者が児童生徒の立場で体験する実践的な講話を受けた。

- ・今後は、授業ユニバーサルデザインの中でも、特に人的環境のユニバーサルデザインが求められる。全員が参加できるような指導者の発問、児童生徒同士が関わりあえる活動の工夫を行う。
- ・授業や活動終了後の振り返りは、肯定的な自己評価ができる工夫を行いたい。課題が多かった場合も、「ぎりぎりセーフ」のような肯定的な評価があると、自己肯定感や次の学習への意欲の向上につながる。

【参加者の感想等】

- ◆ペアトーク、グループトークが多く取り入れられ、楽しく体感しながら、子供たちへの支援の仕方を学ぶことができた。明日からの指導に生かせる点が多かった。
- ◆「できた」と「できなかった」の間に「ぎりぎりセーフ」「まあいいか」の評定もありというポジティブな振り返りの考え方は、子供への声かけにも使えると思う。
- ◆ミニボードの活用やポジティブな振り返りなどを取り入れ、正解にこだわりすぎず安心して皆が参加できる授業にしたい。
- ◆本校の子供たちのために、ぜひ庄原特別支援学校のセンター的機能を活用したい。講話の中で出てきた支援や取組を学校でもやってみようと思った。